動物実験に関する現況調査票

国立大学法人東京科学大学

2026 年 10 月

Ⅰ．動物実験に関する組織

東京科学大学動物実験中央委員会

	所属	職名	専門分野	要件
委員長	大学院医歯学総合研究科 （医学系）	教授	細胞生理学	①
副 委員長	生命理工学院	教授	神経科学、発生工学	①
委員	難治疾患研究所	教授	病態生理化学	①
委員	生命理工学院	准教授	実験動物、発生工学	②
委員	大学院医歯学総合研究科 （歯学系）	教授	認知神経生物学	①
委員	リサーチインフラ・ マネジメント機構 バイオサイエンスセンター	マネジメント教授	組織学、細胞生物学	③
委員	（外部委員）	教授	実験動物学	②

東京科学大学動物実験湯島地区審査委員会

	所属	職名	専門分野	要件
委員長	大学院医歯学総合研究科 （医学系）	教授	細胞生理学	①
副 委員長	難治疾患研究所	教授	病態生理化学	①
委員	動物実験施設	施設長	病態細胞生物学	①
委員	動物実験施設	副施設長	疾患モデル動物解析学	②
委員	動物実験施設	講師	疾患モデル動物解析学	①
委員	動物実験施設	助教	疾患モデル動物解析学	①
委員	動物実験施設	助教	疾患モデル動物解析学	②
委員	大学院医歯学総合研究科 （医学系）	教授	寄生虫学・熱帯医学	①
委員	大学院医歯学総合研究科 （医学系）	准教授	膠原病・リウマチ内科学	①
委員	大学院医歯学総合研究科 （歯学系）	教授	口腔生命医科学	①

委員	大学院医歯学総合研究科 （歯学系）	教授	認知神経生物学	①
委員	大学院医歯学総合研究科 （歯学系）	教授	口腔顎顔面解剖学	①
委員	大学院医歯学総合研究科 （生命理工医療科学系）	准教授	疾患生理機能解析学	①
委員	リベラルアーツ研究教育院	教授	生物学	①
委員	生体材料工学研究所	教授	医療工学	①
委員	難治疾患研究所	教授	人体模倣システム学	①
委員	（外部委員）	教授	経済学	③
委員	（外部委員）	教授	実験動物学	②

東京科学大学動物実験大岡山地区審査委員会

	所属	職名	専門分野	要件
委員長	生命理工学院	教授	神経科学、発生工学	①
副委員長	生命理工学院	准教授	実験動物、発生工学	②
委員	リサーチインフラ・ マネジメント機構 バイオサイエンスセンター	マネジメント教授	組織学、細胞生物学	③
委員	総合研究院	教授	生体材料学	①
委員	総合研究院	准教授	ドラッグデリバリー、 バイオマテリアル	①
委員	生命理工学院	教授	腫瘍学、細胞生物学	②
委員	生命理工学院	准教授	分子生物学、細胞生物学	②
委員	生命理工学院	准教授	神経・筋肉生理学	②
委員	環境・安全推進センター	准教授	衛生学	③
委員	生命理工学院	准教授	輸送体生物学 比較進化生物学	③
委員	リベラルアーツ 研究教育学院	教授	スポーツ生化学 スポーツ生理学	③
委員	外部委員	准教授	機能系基礎歯科学 統合動物科学	①

動物実験委員会の要件欄

① 動物実験等に関して優れた識見を有する者

② 実験動物に関して優れた識見を有する者

③ その他、学識経験を有する者

Ⅱ．機関における動物実験の概要

１．動物実験を行う主たる研究分野

☑ 医歯薬学分野　　□ 畜産・獣医学分野

☑ 生物科学分野　　☑ 理工学分野

□ その他（　　）

２．年度ごとに使用・飼養した実験動物の種類と概数

動物種	マウス	ラット	ウサギ	マイクロミニピッグ	イヌ	ネコ	サル	ウシ	ブタ	マーモセット	ハリネズミ
使用数	109,669	1,339	26	1	5	0	4	0	60	1	2
飼養数	36,741	371	29	0	12	0	3	0	0	2	2

（　2026 年　3 月　31 日　現在）

３．年度ごとの承認された動物実験計画数

動物実験計画数　(2025 年度)	219 件

４．年度ごとの動物実験に関する教育訓練の受講者数

教育訓練受講者数（2025 年度）	1,469 人

５．実験動物飼養保管施設(施設)の現況

施設の総数：　19　箇所

主要飼養保管施設

施設の名称	動物種	最大飼養頭数（概数）
東京科学大学 バイオサイエンスセンター 動物実験施設 (中央飼養保管区域 第 1 飼養保管区域 第 2 飼養保管区域)	マウス ラット ウサギ マイクロミニピッグ イヌ サル マーモセット	40,517 1,094 69 18 26 12 8
難治疾患研究所 未来ゲノム研究開発支援室	マウス	5,190
東京科学大学 バイオサイエンスセンター バイオサイエンス統合支援施設	マウス ラット	13,970 50

施設の所在地

所在地	施設の名称
〒113-8510 東京都文京区湯島 1 丁目 5-45	国立大学法人東京科学大学
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 2 丁目 3-10	国立大学法人東京科学大学 生体材料工学研究所
〒226-8501 神奈川県横浜市緑区長津田町 4259	バイオサイエンス統合支援施設 SPF 動物実験施設

６．動物実験に関する情報公開

当該情報の公開場所（URL）：
東京科学大学　https://www.isct.ac.jp/ja
情報公開ページ　https://www.isct.ac.jp/ja/000/about/disclosure/other

７．国立大学法人動物実験施設協議会又は公私立大学実験動物施設協議会入会の有無

☑ 国立大学法人動物実験施設協議会会員

☐ 公私立大学実験動物施設協議会会員（会員番号：　　）

☐ その他(上記の会員ではない)

公私立大学実験動物施設協議会会員の場合は会員番号を記入ください。

８．自己点検・評価報告書の作成に際して自己点検・評価事項チェック票での確認

URL：http://www.m-kenshou.org/

☑ 行った

９．特記事項

（動物実験に関連した、機関の特徴や特殊事情）

湯島地区の実験動物施設は、2010 年 4 月より全学中央飼養施設である実験動物センターとして組織改編され、2024 年 10 月には、大学統合に伴い、バイオサイエンスセンター動物実験施設へと改組となり、中央飼養保管区域、第 1 飼養保管区域、第 2 飼養保管区域の 3 施設を有する。施設ごとに管理レベルを設定し、マウスなどの小型動物、並びに中型・大型動物を機能的に飼育･実験できるように 3 施設を運用している。

また、動物実験に対する適切な体制を整える為に「動物実験の相互検証プログラム」を 2012 年・2019 年に受審している。

大岡山地区（横浜キャンパス）の動物実験施設は、生命科学・生命工学分野の研究と教育を多方面から支援するために設置された。2024 年 10 月より、リサーチインフラ・マネジメント機構　バイオサイエンスセンター　バイオサイエンス統合支援施設の中に組織され、マウスおよびラットの飼育・実験が可能な環境を提供している。施設内には、生体イメージングを可能にする IVIS spectrum や、精密な行動解析のための高度な実験装置が完備され、さらに生殖補助支援も充実しており、高度な研究基盤を支えている。

動物実験施設外の飼養保管施設は､動物実験施設で管理できないもの等事情がある場合を除き 2025 年度にほぼ廃止となった。